

提案する住宅のタイプごとに作成し、該当する全タイプ分を提出してください。

(様式4 -)

エネルギー消費削減量の計算書【総括表】

1. 住宅概要	住宅NO・名称	[標準仕様]Q2.5タイプ様邸 新築工事			
	地域区分	a	b	a	b
	延床面積	120	m ²		
	断熱性能の計算方法	断熱性能の区分 熱貫流率(U値)		熱損失係数(Q値) 2.5以下 熱抵抗値(R値)	
2. 導入する省エネ手法および添付する計算書					
提案種別		省エネ手法		添付する計算書	備考
事業主基準の計算に準じて概ねゼロとなるもの 審査委員会が同等以上の水準の省エネ住宅と認めるものとして申請するもの		一次エネルギー消費量の計算結果		本総括表	算定要領の[STEP3~5]に対応
		基本仕様		様式4-1	算定要領の[STEP1-1]に対応
		基本仕様(断熱区分(オ)を超える場合)		様式4-2- ~ 様式4-2-	算定要領の[STEP1-1]~[STEP1-2]に対応
		太陽熱給湯器		様式4-3	算定要領の[STEP2-1]に対応
		コージェネレーションシステム		様式4-4	算定要領の[STEP2-2]に対応
		空気集熱式太陽熱利用システム		様式4-5	算定要領の[STEP2-3]に対応
		太陽光発電		様式4-6	算定要領の[STEP4]に対応
		その他		別添計画書	任意の様式
3. 一次エネルギー消費量の計算結果					
項目		計算結果		備考	記号
面積補正前	標準エネルギー消費量		59.9 GJ/年	: 様式4-1の1)の値を転記	E _{ST}
	省エネ量	A (基本仕様)	13.8 GJ/年	: 様式4-1の3)または様式4-2- の5)の値を転記	S _A
		B (太陽熱給湯器)	GJ/年	: 様式4-3の値を転記	S _B
		C (コージェネレーション)	GJ/年	: 様式4-4の値を転記	S _C
		D (空気集熱式太陽熱利用)	GJ/年	: 様式4-5の値を転記	S _D
	小計		13.8 GJ/年	= + + +	S _{SUBTOTAL}
当該住宅のエネルギー消費量(太陽光発電除く)		46.1 GJ/年	= -	S _{TOTAL}	
面積補正後	標準エネルギー消費量		59.9 GJ/年	= ÷ 120 × 延床面積	E _{ST'}
	省エネ量		13.8 GJ/年	= ÷ 120 × 延床面積	S _{SUBTOTAL'}
	当該住宅のエネルギー消費量(太陽光発電除く)		46.1 GJ/年	= ÷ 120 × 延床面積	-
太陽光発電	発電出力		4.6 kW	: 設置予定の公称最大出力	-
	1kWあたりエネルギー消費削減量		10.7 GJ/kW年	: 様式4-6の値を転記	-
	エネルギー消費削減量		49.2 GJ/年	= ×	S _E
計算結果	エネルギー消費量		-3.1 GJ/年	= - -	-
	エネルギー消費削減量		63.0 GJ/年	= +	S _{TOTAL}
	エネルギー削減率		105.2 %	= ÷ × 100	R

注1) STEP1~5、各指標の記号は「一次エネルギーの算定要領」に対応していますので、算定要領を参照してください。

注2) 3. の面積補正について、面積が未定の場合は、延床面積を120m²として3. の ~ を計算してください。

エネルギー消費削減量の計算書【基本仕様】

住宅NO・名称	[標準仕様]Q2.5タイプ様邸 新築工事				
<p>算定ツールの計算結果を該当する欄に記載してください。 本様式は算定要領の【STEP1-1】に対応しています。</p> <p>提案する断熱性能(Q値)が算定ツールの断熱区分(オ)を超える場合は、様式4-2を使用してください。</p> <p>太陽熱給湯器、コージェネレーション設備、太陽光発電設備は、「設置なし」として計算してください。(別途、様式4-3、4-4、4-6で計算します。)</p> <p>コージェネレーション設備を導入する場合、給湯設備は該当するコージェネレーションタイプのバックアップボイラと同様のものとして計算してください。(詳細は算定要領のP.資3-7の表を参照)</p> <p>Webプログラムを使用した場合は、計算結果のPDFファイルを印刷して添付してください。</p> <p>算定シートを使用した場合は、「住宅事業建築主の判断の基準」における報告様式3を利用して計算条件と計算結果を記載し、添付してください。</p>	算定ツールの計算結果				
	項目		計算値	記号	
	(1) 基準一次エネルギー消費量	53.9	GJ/年	E _{SS}	
	(2) 当該住宅の一次エネルギー消費量				
	(2-1) コージェネレーションシステムを設置しない場合	暖房設備	11.5	GJ/年	E _H
		冷房設備	6.7	GJ/年	E _C
		換気設備	8.2	GJ/年	E _V
		給湯設備	12.1	GJ/年	E _{HW}
		照明設備	7.6	GJ/年	E _L
		消費量小計	46.1	GJ/年	E _{TOTAL}
太陽光発電の発電量(評価分)		/	GJ/年	-	
(2-2)コージェネレーションシステムを設置する場合		/	GJ/年	E _{CGS}	
<p>1) 標準エネルギー消費量(E_{ST})</p> $\begin{matrix} (E_{SS}) \\ \boxed{53.9} \end{matrix} \div 0.9 = \begin{matrix} (E_{ST}) \\ \boxed{59.9} \end{matrix} \text{ [GJ/年]}$ <p style="text-align: right;">様式4- の「3の」に転記</p>					
<p>2) 当該住宅の一次エネルギー消費量(E_{TOTAL})</p> $\begin{matrix} (E_H) & (E_C) & (E_V) & (E_{HW}) & (E_L) \\ \boxed{11.5} & + \boxed{6.7} & + \boxed{8.2} & + \boxed{12.1} & + \boxed{7.6} \end{matrix} = \begin{matrix} (E_{TOTAL}) \\ \boxed{46.1} \end{matrix} \text{ [GJ/年]}$					
<p>3) 基本仕様によるエネルギー消費削減量(省エネ量A: S_A)</p> $\begin{matrix} (E_{ST}) \\ \boxed{59.9} \end{matrix} - \begin{matrix} (E_{TOTAL}) \\ \boxed{46.1} \end{matrix} = \begin{matrix} (S_A) \\ \boxed{13.8} \end{matrix} \text{ [GJ/年]}$ <p style="text-align: right;">様式4- の「3の」に転記</p>					

エネルギー消費削減量の計算書【太陽光発電を導入する場合】

住宅NO・名称 [標準仕様]Q2.5タイプ様 邸 新築工事

様式4で記載する太陽光発電の計算根拠として条件等を記載してください。

(1)または(2)のいずれかの方法を選択して、記載してください。

本様式は算定要領の【STEP4】に対応しています。

(1) 早見表を使用して計算する場合

断熱地域区別の1kWあたりの一次エネルギー削減量の早見表(別表3)から、提案システムの方位、傾斜角に応じた値を求め、該当する欄に記載してください。

詳細が未定の場合は、方位：真南、傾斜角：30°として計算することが可能です。

設置勾配(寸表示)の傾斜角(度表示)との対応については別表5を参考としてください。

太陽光発電システムの概要

項目		計算値
地域区分		b
太陽光発電	傾斜角	真南
	方位角	30°
	1kWあたりのエネルギー消費削減量 ¹	10.7 GJ/kW年

1 別表3から該当する値を転記

様式4- または4- の「3の」に転記

(2) 算定ツールを使用して計算する場合 (早見表の値の計算根拠となる計算方法)

算定ツールの計算結果を該当する欄に記載してください。

「太陽光発電」以外は、様式4-1または様式4-2と同じ条件で計算してください。

傾斜角については別表5を参考としてください。

Webプログラムを使用した場合は、計算結果のPDFファイルを印刷して添付してください。

算定シートを使用した場合は、「住宅事業建築主の判断の基準」における報告様式3を利用して計算条件と計算結果を記載し、添付してください。

算定ツールの計算結果(太陽光発電ありの場合)

項目		計算値
(1) 基準一次エネルギー消費量		GJ/年
(2) 当該住宅の一次エネルギー消費量		
(2-1) コージェネレーションシステムを設置しない場合	暖房設備	GJ/年
	冷房設備	GJ/年
	換気設備	GJ/年
	給湯設備	GJ/年
	照明設備	GJ/年
消費量小計		GJ/年
太陽光発電の発電量(評価分)		GJ/年
(2-2)コージェネレーションシステムを設置する場合		GJ/年

項目		計算値
発電出力(公称最大出力)		kW
地域・暖冷房方式別に定められた按分比率(別表4から転記してください)		%

1) 太陽光発電によるエネルギー消費削減量(省エネ量E: S_E)

太陽光発電の
発電量(評価分)

÷

0.44

÷

按分
比率

÷

発電出力
(公称最大出力)

1kWあたりの
エネルギー
消費削減量

= [GJ/kW年]

様式4- または4- の「3の」に転記

当該住宅事業建築主が新築した特定住宅(建売戸建住宅)(住宅タイプ)の省エネルギー性能等の詳細
【算定用プログラムに基づく報告用】

1. 当該住宅(タイプ)の一次エネルギー消費量等

(1) 特定住宅(住宅タイプ)の名称	City House 「匠の家」[標準仕様]Q2.5		
(2) 地域区分	IVb		
(3) 当該特定住宅(住宅タイプ)の戸数(当該地域区分における戸数を記入)	1	戸	
(4) 当該特定住宅(住宅タイプ)の基準一次エネルギー消費量(1戸当り) …①	53.9	GJ/戸・年	
(5) 当該特定住宅(住宅タイプ)の一次エネルギー消費量(1戸当り)			
(5-1) コージェネレーションシステムを設置しない場合	A 暖房設備エネルギー消費量	11.5	GJ/戸・年
	B 冷房設備エネルギー消費量	6.7	
	C 換気設備エネルギー消費量	8.2	
	D 給湯設備エネルギー消費量	12.1	
	E 照明設備エネルギー消費量	7.6	
	消費量小計(A+B+C+D+E) …②	46.1	
	F 太陽光発電設備の発電量(評価分)	0	
合計(②-F) …③	46.1		
(5-2) コージェネレーションシステムを設置する場合 …④	****	GJ/戸・年	
(6) 当該特定住宅(住宅タイプ)の基準達成率 ①/(③あるいは④)×100	117	%	

2. 当該特定住宅(住宅タイプ)の仕様

(1) 断熱性能	構造の種類: 木造(軸組構法) 入力方法の選択: Q値(熱損失係数)を入力する Q値: 2.5W/m ² K
----------	---

(2) 各設備仕様	
設備項目	設備仕様
A. 暖房設備	(a-3)各部屋を間欠して暖房する LDK暖房設備の種類: ルームエアコンディショナー 暖房COP: 一般的な性能値 暖房定格能力: 一般的な性能値 暖房最大能力: 一般的な性能値 LDK以外の暖房設備の種類: ルームエアコンディショナー 暖房COP: 一般的な性能値 暖房定格能力: 一般的な性能値 暖房最大能力: 一般的な性能値

設備項目		設備仕様
B. 冷房設備		(b-3)各部屋を間欠して冷房する LDKの通風の確保:無し LDKの冷房設備の種類:ルームエアコンディショナー 冷房COP:一般的な性能値 冷房定格能力:一般的な性能値 冷房最大能力:一般的な性能値 LDK以外の通風の確保:無し LDK以外の冷房設備の種類:ルームエアコンディショナー 冷房COP:一般的な性能値 冷房定格能力:一般的な性能値 冷房最大能力:一般的な性能値
C. 給湯設備	節湯型機器	節湯型機器(台所):節湯A「手元止水(止水が容易な機構)」 節湯型機器(浴室シャワー):節湯A「手元止水(止水が容易な機構)」 小口径配管:設置あり
	太陽熱温水器	設置なし
	給湯設備	電気温水器(CO2ヒートポンプ) APF:3.4
D. 換気設備		ダクト式第1種換気設備(熱交換あり) モーターの種類:DCモーターを採用する
E. 照明設備	e-1 LDKの照明設備	照明器具の種類:白熱灯は使用していない 調光:いずれかの器具で調光を採用している リビング部分の器具数:1つだけ
	e-2 LDK以外の居室の照明設備	照明器具の種類:白熱灯は使用していない 調光:LDK以外の居室で、調光をどの器具にも採用していない居室がある
	e-3 非居室の照明設備	照明器具の種類:白熱灯は使用していない 人感センサーまたは照度センサー:1つの器具で採用、またはいずれの器具にも採用していない
F. 太陽光発電設備		設置なし
G.コージェネレーションシステム		設置なし